

6/15 2026 下京のひびき

市民しんぶん下京区版 下京区役所

大雨の季節です 水害や地震への備えできていますか!?

CHECK 1 どんな災害による被害が想定されているの?

ハザードマップでは、自宅周辺の災害リスクや発災後の行動、避難所などを確認できます。
今年度の水害ハザードマップの変更で、「淳風、大内、光徳、七条、七条第三、西大路学区」で浸水する恐れのある区域や最大の浸水の深さが変わりました。

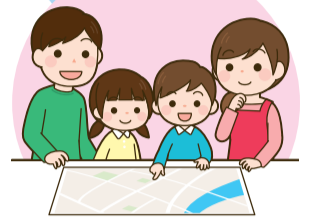
新たなハザードマップで、災害リスクを確認しましょう。



◀下京区版ハザードマップはこちら



ハザードマップ(左:水害編、右:地震編)



CHECK 2 災害が起きたら…アレがないと困るかも!?

災害に備えて3日分、できれば7日分の食料や水、災害用トイレなどを備えましょう。区役所の1階で、備蓄物資や防災グッズの展示をしています。
普段食べているレトルト食品などを少し多めに買い置きして、賞味期限の古いものから「食べて」「買い足して」常に一定量の食品を備蓄する「ローリングストック」がおすすめです!



▲区役所1階の展示

防災グッズは、ホームセンター、家電量販店などで買えます!



◀備蓄物資チェックリストはこちら

チェックリストには載っていない、あつてよかったもの(一例)

- 現金……千円札を中心に、小銭も用意。10円玉は公衆電話にも使用できる。
- 耳栓、アイマスク……騒音や明るい中でも眠れる。
- ドライシャンプー……お風呂に入れないときに不快感を軽減できる。

CHECK 3 防災訓練に参加してみよう!



▲地域の防災訓練などの様子▶



発災後、どう行動するの? 救助はどうやるの? 避難所生活って? まずは、**区や地域が開催する防災訓練に参加しましょう!**
下京区では、毎年12月上旬に防災訓練を開催し、誰でも参加できます。開催日は、市民しんぶんでお知らせします。
各学区の防災訓練は自主防災会の方に開催予定を聞いてみましょう。避難生活はみんなで協力して行います。「顔見知り」を作りましょう。



気になるアレコレ

Q 京都市ではどのくらいの備蓄があるの?

A 京都市では、市民約140万人のうち約20万人が1日を過ごせる量を備蓄しています。
(食料だと約20万人×3食分)
これは、地震によって家が全壊するなどの理由で、避難所などへ避難しなければならない人の人数分です。
発災直後は、水、食料など物資が不足します。在宅避難も想定し、3日間、できれば7日間の備蓄を用意しましょう。

*水と災害用トイレは特に多めに用意を!



Q 大地震が起きたらすぐ避難所に行っているの?

A 自宅にいる時に大地震が起きたら、まずは身の安全を確保し、**避難の準備をして「地域の集合場所」へ行きましょう。**
地域の集合場所では、安否確認、初期消火、救出救助を行います。
その後に町全体で避難所へ避難します。
地域の集合場所は町内会長などに聞いて我が家の防災行動計画「マイ・タイムライン」に書いておきましょう。

*発災後、みんなが避難所に直行すると、初期消火や救助が遅れ、被害が大きくなる恐れがあります。



▲マイ・タイムラインはこちら

☎ 地域力推進室総務・防災担当(☎371-7164)